

備前市事務事業評価シート

(平成20年度事業)

事業の概要			
事業開始年度 平成18年度～			
総合計画	大項目	基本目標	02 健康でやさしさあふれるまちづくり
	中項目	基本施策	01 やさしさあふれるまちづくり
	小項目	施策	04 高齢者福祉
事務事業名		09 シルバー人材センター補助事業	根拠法令・例規等
		問 担当課(室)	介護福祉課
		答 職・氏名	高齢者福祉係長・春名美郎
		先 電話	0869-64-1827

事業の実施	
対象(誰・何に対して)	備前市シルバー人材センターの会員
目的(何のために)	高齢者の臨時的かつ短期的な就業を通じて自己の労働能力を活用し、それによって自らの生きがいの充実や社会参加を図る。
行政活動(どのような方法で)	シルバー人材センター事業運営に対して補助金を交付する。
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	会員の就業の機会が増え、生きがいの充実と社会貢献度の向上

事業の実績				
実施項目	単位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績
会員数	人	186	178	182
就業延人員	人	8,924	10,574	12,459
事業費	千円	12,050	9,610	8,550
必要人員	人	0.25人	0.03人	0.01人
事業費	千円	2,560	323	100
事業費	千円	14,610	9,933	8,650
国・県・市・道・支・出・金	千円			
受・益・者・負・担・金	千円			
経・入・金	千円			
市・債	千円			
そ・他	千円			
一	千円	14,610	9,933	8,650
受・益・者・負・担・比・率	%			

結果指標名				
結果指標名	単位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績
会員数	人	186	178	182
対前年比	%	-	95.7%	102.2%
活動コスト	円	14,610,000	9,933,000	8,650,000
単位当たりコスト	円	78,548	55,803	47,527
就業延人員	人	8,924	10,574	12,459
対前年比	%	-	118.5%	117.8%
活動コスト	円	14,610,000	9,933,000	8,650,000
単位当たりコスト	円	1,637	939	694

事業の成果				
成果指標名	年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
就業率 ※H18,19年度は就業延人員	目標値(A)	9,000	9,000	60
	実績値(B)	8,924	10,574	68.46
	達成率(B/A)	99.2%	117.5%	114.1%
到達目標値 70 平成21年度				
成果指標設定の考え方・式や説明				
年間就業延人員/会員数				

事業の目的、対象、内容を考えてから目的の妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

事務事業の評価		妥当性評価<A~E>		
市の関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 市が実施するよう法令で義務づけられている <input type="checkbox"/> 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす <input type="checkbox"/> 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない <input checked="" type="checkbox"/> 事業の内容が一部の受益者に偏っている <input checked="" type="checkbox"/> 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている <input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化してきている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input checked="" type="checkbox"/> 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある <input type="checkbox"/> 類似した事業がある	判定理由・課題認識 会員数は微増だが、就業延人員、契約金額及び受注件数は大幅増となっており、今後、受注に対応するため、さらなる講習会等を実施する必要がある。		
	市民ニーズ	<input type="checkbox"/> 市民・団体等から要望・要請が強い <input type="checkbox"/> 説明		
効率性の評価	コスト	<input checked="" type="checkbox"/> 単位当たりコストは前年度と比較して改善している <input type="checkbox"/> 実施方法(派遣・委託)を見直すことでコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい <input type="checkbox"/> 受益者負担率は適正である <input type="checkbox"/> 受益者負担率を見直す余地がある <input checked="" type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	効率性評価<A~E> C 判定理由・課題認識 平成18年度法人を設立するに当たり、当初経費がかかり単位当たりコストが膨らんでいる。19年度からは国の補助制度と同額を補助することでコスト削減を図っているが、これ以上の削減は、事業そのものが継続できない恐れがある。また、会員登録数の増加を図るため、事業の紹介や会員募集をする必要がある。※平成20年度に3,000千円(国庫補助)合わせると6,000千円の削減で事業をスタートしたが、事業の継続ができない理由で2,000千円(国庫補助)合わせると4,000千円の増)補正する。更に、平成21年度で19年度と同額(国の基準額と同額)の予算措置をした。	
	目的達成度	<input checked="" type="checkbox"/> 成果指標の設定は適切である <input checked="" type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input checked="" type="checkbox"/> 成果指標達成率は前年度と比較して向上している <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は80%未満となっている <input type="checkbox"/> 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない	有効性評価<A~E> C 判定理由・課題認識 施設職員による利用者に対するサービス意識の向上等、利用者のニーズを意識した利用者本位のサービス提供を行っている	
市民参画度	<input checked="" type="checkbox"/> 現在事業を継続しても市民参画の向上は期待できない <input checked="" type="checkbox"/> 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している <input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映させる仕組みがある <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> 事業のプランづくりから市民参加を得る手段をとっている			

平成21年度の状況						
目標値	結果指標量①	190	結果指標量②	12,500	成果指標量	70
状況	拡充		現状継続	○	縮小	
説明	法人設立後3年が経過し、事業そのものは順調である。会員数や受注件数が増加したことに伴い、講習会の実施や備品等の充実を図っていく必要がある。また、補助金は国の基準額に戻してこれにより増額となり、前年度に比べコスト面の改善は難しい。					

総合評価		評価区分<A~E>
法人設立後、徐々にではあるが、会員数や就業延人員の増加に伴い、事業拡大も進み、受注に対応できる体制も整備できつつある。全地域住民からの事業に対するニーズは増大しており、益々、高齢者の就業機会の拡大を図っていく必要がある。		B

平成22年度以降の方向性・内容						
方向性	拡充		現状継続	○	縮小	
説明	平成22年度以降も、シルバー人材センターへの支援を通して、高齢者の持つ能力を十分に活かして働くことができる、安定した就業機会の確保を図る必要がある。そのためには、市民(高齢者)へのPPを十分に行い、会員増等事業の拡大を図る必要がある					
改善がある場合	評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果		
有効性		団塊の世代の退職者の加入促進	H22~	高齢者の社会参加を促進することにより、生きがいのある健康な高齢者が増える。		